

「水産エコラベル認証審査支援システム(MuSESC)」の構築について

水産研究・教育機構，東京大学，東京海洋大学，大日本水産会

水産研究・教育機構（以下、機構）他 3 機関は、共同して水産庁補助事業（平成 29 年度補助事業「(2) 日本発の水産エコラベル認証取得加速化事業のうちの、1 認証審査関係情報の収集システム及び入力データ利用システムの構築」）において、水産エコラベル認証の取得を支援するシステムの開発を、三菱スペース・ソフトウェア(株)に委託して進めている。

1. 目的

世界的には、MSC・ASC・FOS など各種の水産物エコラベル認証が欧米諸国を中心に普及しており、我が国でも既に数件が認証を取得している。欧米諸国の大手スーパーや流通加工業者の中には、これらの認証の取得を水産物取引の条件とする業者が増えており、我が国からの水産物輸出を考える際には、認証取得が必要条件となりつつあるが、これらの水産物認証取得には、相当の費用と審査期間が必要とされている。この経費高騰については、主に審査資料の準備と往査旅費に起因しており、また、審査の時間については、科学的な調査結果や報告書など公表文書の系統立てた整理を要する審査資料の準備作業に起因している。

今回のシステム構築は、こうした状況を打開するとともに、国際的な機関（GSSI）の基準を満たした認証を国内事業者に広く普及することを目的としている。また、国内で先進的な資源管理の取り組みを行っている小規模漁業者の多くが、都市部から離れた条件不利地に所在していることを考慮し、審査資料の収集整備を支援する論文・報告書文献データベースと、申請者が審査項目に従って必要書類を準備・登録することが容易に出来るような審査準備システムとすることにより経費削減と審査準備期間の短縮を目指している。

2. システムの内容

今回構築しているシステムは、2つのシステムから構成されており、1) 機構のSH“U”Nプロジェクトで収集・整理されてきた文献情報を管理し、効率的に検索する「SH“U”Nプロ情報サーバ」と、2) 水産物認証取得を支援する「MuSESCサーバ」から構成され、いずれもクラウドネットワーク上に実装される(図1)。

「SH“U”Nプロ情報サーバ」は、プロジェクトに従事する研究者専用の閉鎖的なサーバであり、水産物認証に必要な各種文献情報の他、公的機関の公表文書等を効率的に検索

できるシステムである。プロジェクトで蓄えられた文献書誌情報は、必要に応じて API により電子的に「MuSESC サーバ」に提供される。

「MuSESC サーバ」は、MSC・ASC・MEL・SCSA など異なる水産物認証スキームと、それぞれの審査を行う認証機関をそれぞれ独立して設定することが可能であり、各認証スキーム・審査機関固有の申請項目・認証基準・実際の審査内容・サンプリング調査帳票などを、カスタマイズして登録することができる(図2)。

【本システムが実装する機能】

- 申請希望者が自分の状況を入力することにより、異なる水産物認証の審査基準にどの程度適合しているのかを自己チェックする機能。認証審査機関との契約なしに簡単なユーザー登録で 사용할 ことができる。
- システム上で各評価項目に対する審査対象となる情報登録や既存文献・報告書等の検索登録を実施し、現地審査までに必要な事前準備をシステム上で実施する機能。申請希望者が、認証規格と認証審査機関を選んで契約した後に使用することができる。
- 現地審査で、ノート PC・タブレット端末等により事前登録情報を確認しつつ、審査結果を入力していくことで、審査報告書を完成させる機能。途中のやりとりや是正対応などすべてのやりとりが電子的な記録に残るとともに、審査の進捗状況を関係者間で確認することができる。
- 年次審査スケジュールを管理する機能。年次審査の際には、事前に申請者に連絡を 発出し準備に漏れのないように対応するとともに、情報更新を必要とする評価項目等についても提示することができる。
- このシステムは、コンサルティング会社が申請者に代わって作業を行うことも可能 である。また、複数の水産物認証規格を比較しながら予備的な検討を行うことも可能 であることから、各県の水産業普及指導員やコンサルティング会社による利用も 期待される。

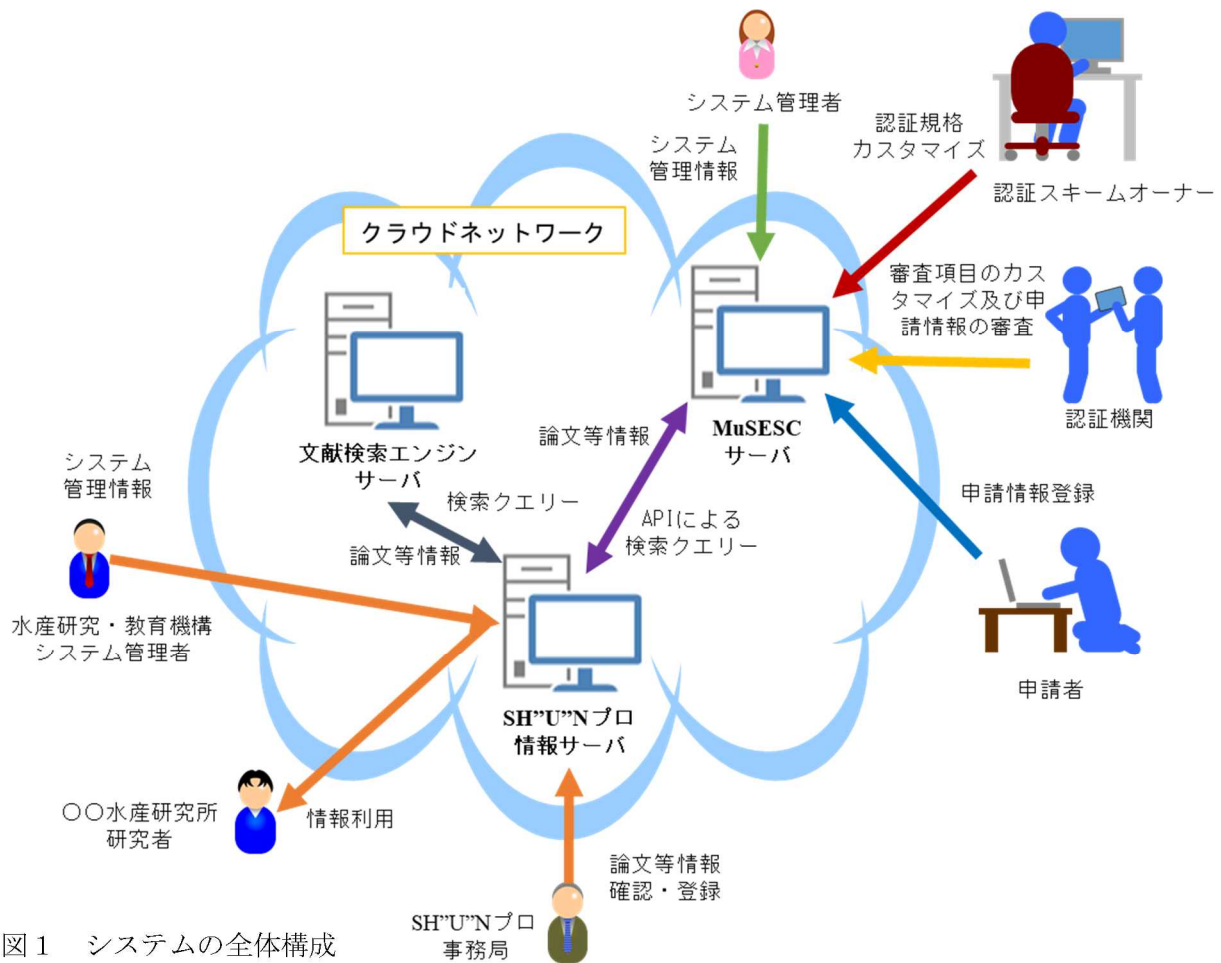


図1 システムの全体構成

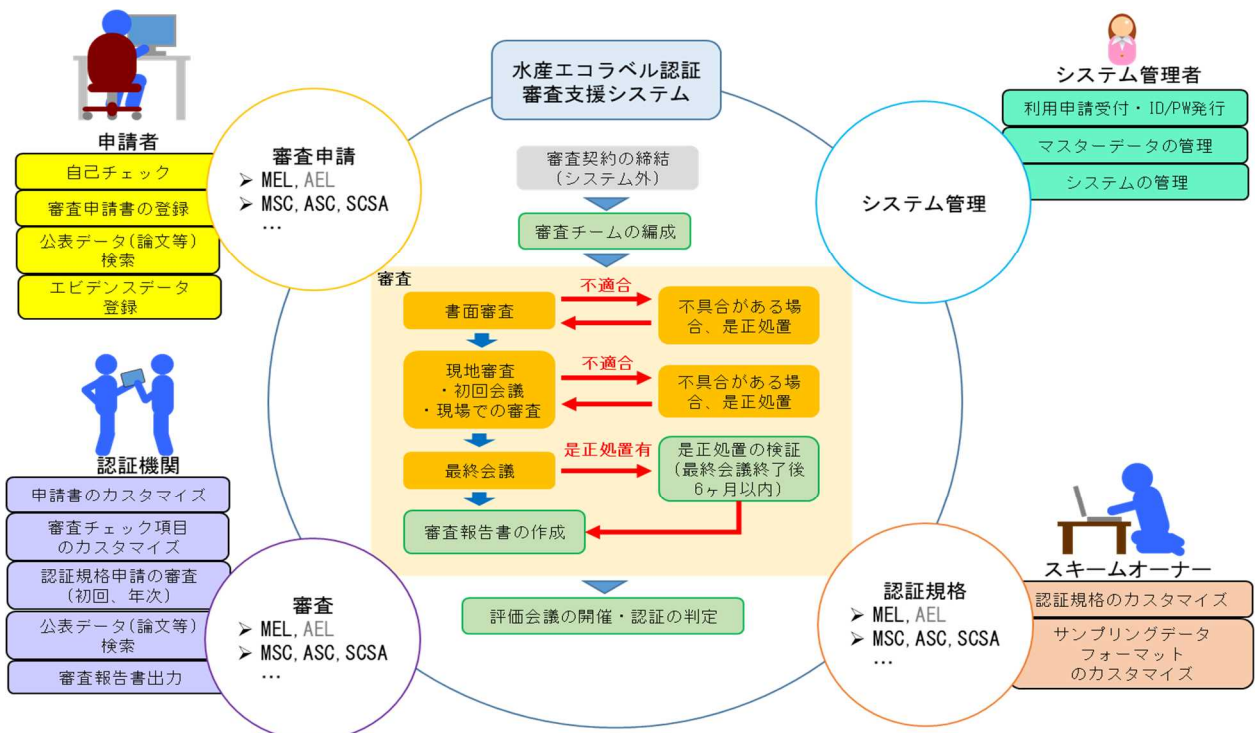


図2 MuSESC システムの機能

3. システム名称

「水産エコラベル認証審査支援システム」

「(Multi-task support System for Ecolabelling and Seafood Certification)」

MuSESC (呼称 ミュセスク)

英語表記で「Multi-task」を入れているのは、このシステムが申請、審査、検索、診断などの多くの機能を有するシステムということから来ている。

4. システムロゴ

海と飛び跳ねる魚をヒトの両手で包んでいる。親子の2尾の魚で現される水産資源と、それを育む海洋を、人の知恵と管理によって守るというイメージを表現している。(商標申請中、著作権は機構に帰属)



5. 構築スケジュール

設計段階は終了してプログラム構築の段階に入っており、年度末までにはテストデータを登録して、運用テストを完了する予定である。

本システムに参画が確定している認証スキームとしては、現在のところ MEL のみであるが、申請希望者が簡単な登録でアクセスできる自己チェック機能については、MEL の他にも、MSC・ASC ならびに SCSA の各認証スキームがそれぞれのホームページで公表しているデータの使用を内諾しており、システムリリースまでにはこれらの複数の認証基準(漁業認証・養殖認証)を本システムに搭載することを予定している。

今回構築するシステムにより、機構が SH“U”N プロジェクト発足時に目標とした、調査研究成果情報の水産物認証取得へも有効な活用についても、有効な手段が確保されるとともに、水産物の輸出促進に向けた水産物認証取得の促進にもつながるものと期待される。

用語説明

MSC (Marine Stewardship Council): 1997年創設、イギリスに本部。34カ国で315の漁業団体に生産者認証、42,320の加工流通業者にCoC認証を発行

ASC (Aquaculture Stewardship Council): 2010年創設、イギリスに本部。736の養殖場に生産者認証を発行

SCSA (Seedlings Council for Sustainable Aquaculture) 持続可能な水産養殖のための種苗認証協議会)。2017年創設、和歌山県に本部。「人工種苗」を用いる養殖業が持続可能であることを証明し、同時に我が国の人工種苗による養殖業は、世界に誇るべき優れた技術であることを発信することを目的。5事業場に生産者認証を発行

GSSI (Global Sustainable Seafood Initiative): ドイツ政府の出資により設立されたドイツ国際協力公社(GIZ)、国際的な水産関係企業17社及びNPO法人3社により2013年2月に設立された戦略的連合組織であり、国際的なプラットフォームによる情報交換の促進や、Global Benchmark Toolの開発及びこのツールに基づく各認証スキームの承認を行い、認証スキームの世界的な信頼性確保と普及を目的としている。

SH“U”Nプロジェクト (Sustainable, Healthy and “Umai” Nippon seafood (サステイナブルでヘルシーなうまい日本の魚)) 機構が、水産全般にわたる調査研究成果を整理公表することにより、消費者の水産資源の持続性に関する理解を深め、日本の水産物を安心して食べられる社会が実現されることを期待して展開している、アウトリーチ活動。

API (Application Programming Interface): 「プログラムからソフトウェアを操作するためのインターフェイス」とされるが、ここではあるWebシステムから別のシステムに自動的にアクセスしてそこにある情報を検索入手する、WebAPIを指している。